



教育推進室だより

第11号

平成29年5月15日
武蔵野市教育委員会
指導課教育推進室
電話60-1241



武蔵野市制70年と学校教育

教育長 宮崎 活志

武蔵野市の誕生 昭和22年11月3日、武蔵野町に市制が施行されました。多摩地区で3番目の市となる武蔵野市の誕生です。それは戦前からあった市とはまったく違う、戦後の「地方自治法」（同年5月3日施行）に基づく新しい自治体としての市でした。当時の人口は約6万7千人。そして、この年の12月末には、武蔵野市での敗戦後の復員兵は1188人、外地から引き揚げてきた人々は1508世帯3291人と記録されています。

裸足の閲覧者 人口の急増や住宅難、食糧難など、戦後の市民生活の混乱が続く中でも、武蔵野市民には文化と教養への強い欲求がありました。「武蔵野市百年史」に「平和で民主的な文化国家を建設するために、町が独自に行ったことのうちで最も重要であった」と指摘された武蔵野町立図書館の開設は、そのような市民の願いを実現したものです。図書館は市制施行の前年、昭和21年7月に第四国民学校（現・四小）の一部を借りて開設されました。当時の写真には、狭い教室にびっしりと席を埋めた人々が静寂の中で一心に読書する姿が写されています。そして、その中央に写る男性の足元は裸足なのでした。

苦闘する学校教育 武蔵野市の学校教育は、文化と教養を何よりも大切にする市民とともに戦後の歩みを始めましたが、敗戦後は教員も施設も教材もすべて不足している状態でした。今年4月の市立小学校の児童数は12校で5634人。市制施行時の児童数は5校で6690人。学校数は半分以下なのに児童は今より多かったです。圧倒的に教室は不足していて、1～4年生は二部授業が行われました。一方、戦後新たに誕生した新制中学校の状況は更に深刻で、市制施行の年に創立された第一中学校は約1000人の生徒に対し、五小の2教室と元・青年学校の3教室で二部授業を行うとともに、市内の私立中学校などに教育を委託してなんとか中学校教育をスタートしました。本校舎の完成は開校から1年後でした。

市民の暖かい支援は今も そんな困難な状況でしたが、武蔵野市ではその後着実に学校づくりが進みました。そこには、市民の暖かく強い支援がありました。住民からの学校用地の提供、起債引き当ての定額郵便貯金への市民の協力、そして市史に特筆される「愛市公債（学校建設一時公債）」の発行などは、まさに教育・文化の振興に対する市民の惜しみない協力の姿が顕れたものです。そして今も、武蔵野市の小中学校は地域社会と深い絆で結ばれ、市民から大きな支援をいただいて教育活動を進めています。

市制70年を経て変わらないもの、それは子供たちの教育を通じて、人間尊重の精神に基づく、文化と教養の豊かな地域社会の実現を目指す武蔵野市民の心だと思っております。

まもなくはじまります



小学校セカンドスクール（5年生） 6泊7日、7泊8日
中学校セカンドスクール（1年生） 4泊5日
小学校フシセカンドスクール（4年生） 2泊3日

セカンドスクール



子供たちの「課題解決能力」「豊かな人間関係」「自主性・協調性」「進んで他者と関わる力」などを培うことをねらいに平成7年度に小学校で、平成8年度には中学校でスタートしたセカンドスクールも、今年度で22年目を迎えます。

先生方、保護者、宿泊先の方々に御理解・御協力をいただき、上記のねらいを達成するために取り組んでまいりましたが、平成27年度には「グッドデザイン賞（公益財団法人日本デザイン振興会）」を受賞するなど、評価をいただきました。



各学校で工夫して取り組んでいるセカンドスクールですが、さらに学習効果を高めるために他の学校の様子や状況を知ることも大切ですので、毎年、全学校のセカンドスクール終了後、その「セカンドスクール報告会」も行ってきました。



平成28年度 セカンドスクール報告会

平成28年度の報告会は平成29年2月7日（火）に開催され、市立小中学校全18校から副校長や担当教諭などが参加し、事例報告と意見交換が行われました。

今回の事例報告は、新潟県魚沼市で実施した本宿小学校と、長野県白馬村で実施した第三中学校が行いました。具体的な活動の様子とあわせて、本宿小学校からは、セカンドスクールを経験したことで児童が集団のことを考えて行動するようになったこと、第三中学校からは、長野オリンピックに関わって宿の方々が経験したことを伺ったり、実際に会場施設を見学したりすることにより、オリンピック・パラリンピックをより身近に感じられたことなどの報告がありました。

意見交換は中学校区ごとに行い、特に力を入れている活動とそのねらいについて共有し、小学校と中学校のプログラムをどのように連携させていくかについて話し合いました。その結果、発達段階に応じた体験活動のねらいや課題設定を明確にしたうえで、セカンドスクールの取組内容についての情報交換などの小・中学校の交流を今後も計画的に行っていく必要があるなどの意見が出ていました。



報告会の様子

市教育委員会として、子どもたちにとってさらに実りあるプログラムに発展できるよう、今回の報告会で出された意見を参考に各学校の支援に取り組んでまいります。

平成29年度 初任者研修 開講式

平成29年4月1日、新規採用教員の23名が武蔵野市立小中学校に着任しました。

初任者代表のことばとして、第一中学校の井手夏子教諭が教員になるきっかけとなった恩師との出会いから、これからの学校教育に対する熱い想いが伝わる宣誓を行いました。



シリーズ 初任の先生「今日もがんばる！」 <その11>

初任者研修開講式では宮崎活志教育長から、子供たちにとって時に親以上に強い影響を与える存在である“先生”にみなさんはなった、との言葉に身の引き締まる思いと、よし頑張ろうという気持ちを喚起されました。

開講式後は、早速第一回目の研修が行われ、竹内道則教育部長から「武蔵野市について」、秋山指導課長から「教育公務員としての服務」についての講義を受けました。

これから行われていく研修は、授業方法や学級運営など、様々な課題に取り組んでいきます。日々成長していく初任者を学校のみならず、応援していきたいと思いました。

～地域で活躍している団体紹介 <その10>～

出前授業いたします

吉祥寺南町郵便局

局長 西 孝幸 様



出前（手紙）授業中の様子

「手紙を書いたことやもらったことのあるお友達？」こんな質問をすると教室の子供たちは、みんな手をあげてくれます。

その時の気持ちを聞くと「うれしかったよ。」と笑顔で応えてくれます。

私たち、郵便局にとっては、うれしいかぎりです。

ただ単に内容を伝えるだけではなく、気持ちも一緒に届けることのできる手紙の文化は絶対にこれからも必要だと思います。

しかし、手紙の文化は、確実にうすれつつあります。メールやSNSなどの普及による手紙の扱い量の減少もそうですが、宛名の書き方が、わからない人が増えています。

そこで私たちは『手紙の書き方』の出前授業を実施しています。忙しい先生方に代わり、貴重な授業の1コマ、2コマをいただき、はがきの宛名の書き方から裏面の通信面までを教えています。教材もこちらで用意させていただいております。

武蔵野市はまだですが、近隣市では小学校を中心にすでに実施しています。毎年、同じ学年で続けている学校もあります。

表の宛名面は、きちんと住所に届くように記入する方法を教えています。裏面は、何を書いたらいいのか、基本は教えますが、目標や絵をかいてもらったりと子供たちの自由な発想があふれています。どの学校の子供たちも手紙という作品を作り上げて『できたあ』といって笑顔で私たちにみせてくれます。どれも個性ある素晴らしい作品になります。

私たちは、この時の喜びを思い出してもらうことで、手紙を書く文化を続けていってもらいたいなと思っています。ぜひ『手紙授業』を活用いただき、子供たちの将来のためのお手伝いをさせていただければと思います。

詳細につきましては、直接吉祥寺南町郵便局にお電話いただくか、教育推進室までご連絡ください。

吉祥寺南町郵便局 電話：0422-43-8889

教育推進室 電話：0422-60-1241、FAX：0422-51-5113

【お知らせ】

今回の教育推進室だよりでお気づきの点やご意見がありましたら、ぜひ教育推進室までお寄せください。

次号は「開かれた学校づくり協議会委嘱式」「地域コーディネーター委嘱式」の様子等を掲載する予定です。